

実践事例：共感を高め、生命の大切さについての感じ方を深める

- 1 主題名 命の温かさ<3-(1)生命の尊重>
- 2 資料名 「ハムスターのあかちゃん」(東京書籍1年生用副読本)
- 3 ねらい 生命があることにうれしさを感じ、大切にしようとする心情を育てる。
- 4 ねらいとする価値

生命を尊重する気持ちは、すべての道徳的価値の根底にあるものである。また、低学年の児童は、具体的な事柄から考えるという発達段階にある。そこで、児童が日常生活の中で見過ごしている生命の大切さを具体的に取り上げ、生命があるからこそその喜びや素晴らしさ、そのうれしさや大切さを感じ取れるよう指導していきたい。

5 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など	留意点
1 「いのち」を考えた経験を話し合う。	◇ねらいとする道徳的価値への問題意識をもたせる。
2 資料「ハムスターのあかちゃん」を読んで話し合う。 ○生まれたばかりの赤ちゃんを見たときに、「私」はどんなことを思ったか。 ○お母さんが口にくわえて赤ちゃんを運んでいるようすを見てどう思ったか。 ◎「私」は、お母さんと赤ちゃんにどんな言葉をかけてあげたいか。	◇黒板に場面絵を貼りながら、読み聞かせる。 ◇ハムスターの赤ちゃんを見つめる後ろ向きの「わたし」の絵を貼り、考えさせる。
3 自分の生活を振り返る。 ○生命があることを、うれしく思ったり、大切に思ったりしたことはあるか。	◇生命を大切にしたい気持ちについて、感じ方・考え方を深める。
4 「わたしたちの道徳」の90ページを見て、自分自身の生命への思いをふくらませる。	◇「わたしたちの道徳」を活用し、自分の生命への思いを深める。

6 指導の実際



(1) 板書の工夫

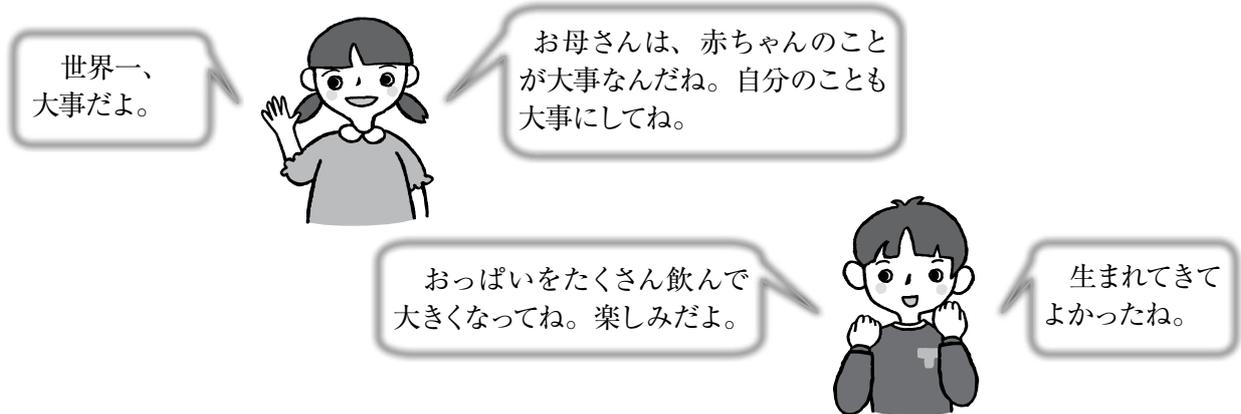
左の板書下部にある後ろ姿の女の子の絵は、裏返すと顔が描いてある。このような共感を高めるための板書と資料提示の工夫により、多くの児童が、この女の子の後ろ姿に自分を重ね合わせながら、自分なりにハムスターへの思いを語る事ができた。このように、道徳的価値の自覚を深めるためには、自分と重ね合わせながら考えるようにする資料提示の工夫と合わせた板書が重要である。



(2) 発問の工夫

中心発問の児童の発言を受け止め、問い返していった。すると児童は、その思いを話し合い、自分との関わりで考え、生命があることにうれしさを感じ、生命を大切に思う心について、感じ方、考え方を深めていった。

《自分との関わりで考え、価値についての理解を深める》



《自分自身を振り返り、思いを培う》

